

手話（しゅわ）について（キッズ・モニターアンケート）

実施概要

担当部局	実施期間	対象者数	回答者数	回答率
子ども・福祉総務課	2019年01月18日から 2019年02月06日まで	520	201	38%

今回は、障がい福祉課（しょうがいふくしか）からのお願いです。

三重県では、耳の聞こえない人のコミュニケーション方法である「手話（しゅわ）」を大切にするため、「三重県手話言語条例（みえけんしゅわげんごじょうれい）」を定め、聞こえる人と「ろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）」が、おたがいを尊重（そんちょう）し、だれもが「手話」に親しみ、「手話」が広く利用される社会になることをめざしています。

今回のアンケートでは、みなさんに、「手話」をどれだけ知っているか、どれくらい「手話」に接する機会があるかなどについてお聞きしたいと思います。ぜひご意見を聞かせてください。

■ Q1 あなたの年代について【1つえらぶ】

あなたの年代はどれですか。

合計	201	
小学生	67	33.3%
中学生	61	30.3%
高校生	73	36.3%

■ Q2 手話について（1）【1つえらぶ】

あなたは、「手話」というものがあることを知っていますか。

※手話が使えなくてもかまいません。

合計	201	
知っている	196	97.5%
知らない	5	2.5%

■ Q3 手話について（2）【いくつでも】

Q2で「知っている」と答えた人にお聞きします。

「手話」をどのようにして知りましたか。あてはまるものすべてをえらんでください。

合計	196	
テレビで見たことがある	153	78.1%
学校やボランティア活動などで知った	153	78.1%
本、雑誌（ざっし）、インターネットなどで知った	38	19.4%
身近な人で手話を使う人がいる	11	5.6%

街（まち）、駅など外出先で実際（じっさい）に見たことがある	42	21.4%
その他	7	3.6%

■ Q4 手話にふれる・学ぶことについて（1）【1つえらぶ】

あなたは、これまでに、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがありますか。

合計	201	
ある	129	64.2%
ない	72	35.8%

■ Q5 手話にふれる・学ぶことについて（2）【いくつでも】

Q4で「ある」と答えた人にお聞きします。それはどのような場面でしたか。あてはまるものすべてをえらんでください。

合計	129	
学校やボランティア活動などで、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがある	111	86.0%
テレビ、本、インターネットなどで、手話を学んだことがある	20	15.5%
身近な人で手話を使う人がいる	12	9.3%
身近な人ではないが、手話を使う人に会ったことがある	24	18.6%
その他	6	4.7%

■ Q6 手話への関心について【1つえらぶ】

あなたは、手話に関心がありますか。

合計	201	
関心がある	74	36.8%
どちらとも言えない	103	51.2%
関心がない	24	11.9%

■ Q7 三重県手話言語条例について【1つえらぶ】

あなたは、平成29年4月1日に「三重県手話言語条例（みえけんしゅわげんごじょうれい）」ができたことを知っていましたか。

合計	201	
知っていた	8	4.0%
知らなかった	193	96.0%

■ Q8 ろう者について【1つえらぶ】

あなたはろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）と話したいと思いますか。

合計	201	
思う	42	20.9%
どちらかといえば、思う	63	31.3%
どちらかといえば、思わない	36	17.9%
思わない	7	3.5%
わからない	53	26.4%

■ Q9 「手話」が使われるために必要なことについて【いくつでも】

あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてをえらんでください。

合計	201	
家庭で、手話とろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）について話し合うこと	65	32.3%
学校で、手話とろう者について学ぶこと	137	68.2%
ろう者から、直接（ちよくせつ）話を聞くこと	107	53.2%
ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会（きかい）をつくること	118	58.7%
地域のイベント等をとおして、手話とろう者について知ってもらうこと	75	37.3%
三重県手話言語条例の内容について、広く知ってもらうこと	52	25.9%
わからない	11	5.5%
その他	5	2.5%